

平成 26 年 2 月 24 日

第 8 回長崎サミットへの提議（案）

長崎サミット

上田 恵三 長崎商工会議所会頭	中村 法道 長崎県知事
宮脇 雅俊 長崎経済同友会代表幹事	田上 富久 長崎市長
尊田 雅弘 長崎県経営者協会会長	片峰 茂 長崎大学学長
中村 吉治 長崎青年会議所理事長	

殿

長崎都市経営戦略推進会議
議長 里 隆 光

本プロジェクトは、2010 年に「みんなでつくろう元気な長崎」をスローガンに、人口減少、GDP 低下等に象徴される地域経済の衰退に歯止めをかけるべく、産学官連携して立ち上がった活動である。

活動開始後、外貨の獲得による地域経済の維持を目指して 2020 年の定量目標を掲げ、課題・目標の共有と協働（キーワード：連携と分担）に関係者が努力し、4 年余り諸活動を展開し今日に至った。

この間、関係者が共通のテーブルで課題解決にあたるという土壌も生まれ、掲げた個別テーマで成果に結びつく例も出てきており、一つの経済活性化に向けた流れをつくりつつあると思われる。

このプロジェクトでは、定量目標達成に向けて、活動する 10 年間に 3 ステージを設定し、P D C A 方式で活動を推進してきた。具体的推進体制を構築する第 1 ステージ（2 年間）、具体的成果を得るための基盤整備の第 2 ステージ（3 年間）、具体的成果を得る第 3 ステージ（5 年間）という設定であるが、2014 年 8 月から具体的成果を得る第 3 ステージに入る。〈別紙 1〉

つまり、これからこのプロジェクトの最大の山場に入っていくことになり、これまで培ってきた活動成果、そして当地域の新幹線をはじめとする大型プロジェクトを確実に活用し、当地域経済の維持に向けて、更なる活動を展開していかなければならない。

今回の長崎サミットにおいては、具体的成果を追求していく 2014 年 8 月からの第 3 ステージを控え、「**今、何をしておくべきか**」「**急がなければならない施策は何か**」をテーマとして議論して頂くことを提議する。その際、以下の方向性を確認頂き、意見交換を願いたい。

提議 1 定量目標達成への関係者による一体的推進に向けて

(1) 2020年定量目標の再確認 ―以下を共通の目標として目指す―

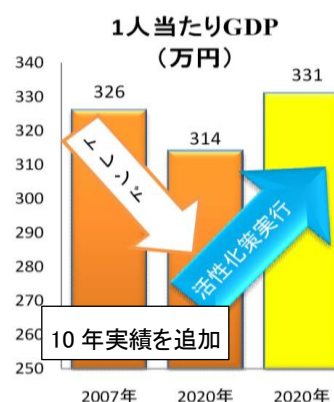
全体目標

1人あたりGDP(長崎地域)

331万円(2007年比 +5万円)

(トレンド比 17万円増)

現状

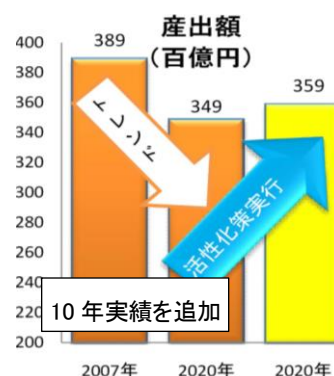


産出額(長崎地域)

359百億円(2007年度 3,000億円減)

(トレンド比 1,007億円増)

現状

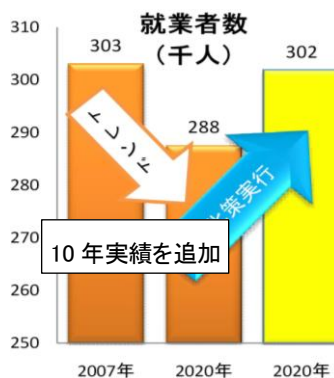


就業者数(長崎地域)

302千人(2007年比 1千人減)

トレンド比 15,500人増

現状

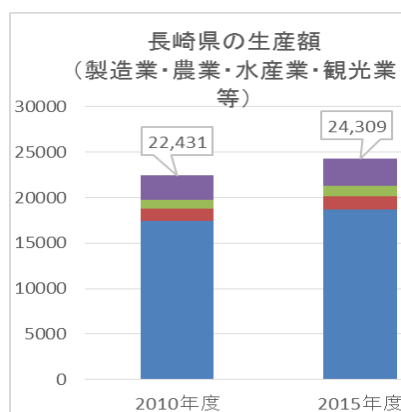


《 1人あたり県民所得向上(長崎県) 》

長崎県では一人あたり県民所得が低迷する県内経済の現状打開へ、成長につながる高付加価値の産業群構築対策を13年度から実施。

製造・農・水産・観光業等の産出額を12年度の2兆2,431億円から15年度に2兆4,309億円へ1,878億円増やし、県民所得779億円増を目標とする。

これは、長崎サミットにおける長崎地域の目標と軌を一にしており、目標の参考指標とする。



【分野別の目標】

○基幹製造業

基幹製造業本体の生産規模維持・確保

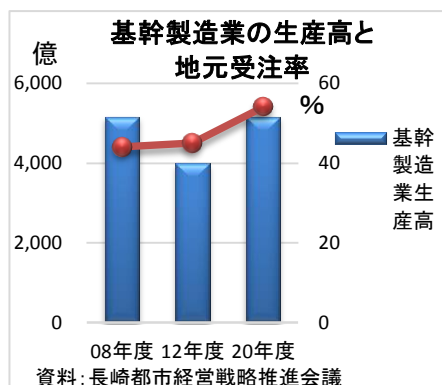
◇生産 5,160 億円の維持

・・・ 現状 3,982 億円 (12 年度)

◇地元企業の受注率引き上げ

地元受注率 10%ポイント引き上げ

・・・ 44%→現状 44.9% (12 年度)



○観光

観光客 700 万人

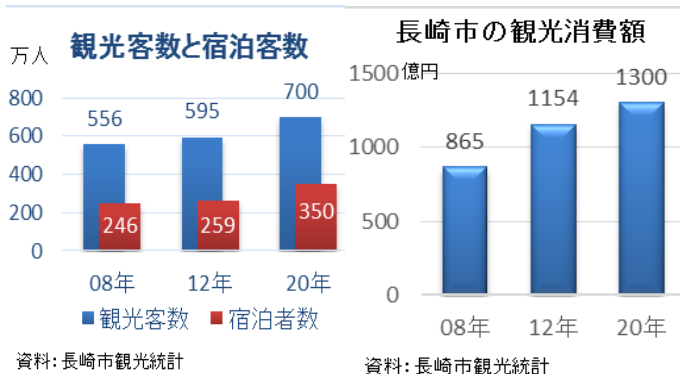
観光客数増加および宿泊

◇日数の長期化：長崎市の観光客 556 万人 (宿泊 246 万人) を 700 万人 (宿泊客 350 万人) へ引き上げ。

・・・現状 595 万人、宿泊 259 万人 (12 年)

◇消費単価引き上げ：長崎地域の観光消費額を、宿泊客増と消費単価 2 割アップで 08 年 865→1,300 億円へ

・・・現状 1,154 億円 (12 年)



○水産

練り製品生産販売額 120 億円

生産・販売力強化による売上げ拡大

練り製品(かまぼこ)生産販売額を現状 60 億円から 120 億円に。

・・・現状 70 億円 (12 年)

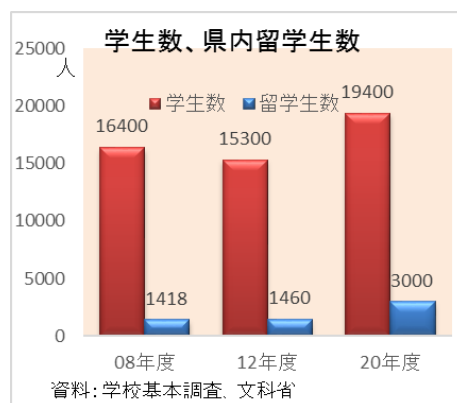


○大学 留学生 3000 人

◇地域との連携・経済効果 (学生数増) の拡大

留学生の増員等により学生 2 割 (3,000 人)、教職員 1 割 (300 人) 増 (大学支出および学生・教職員消費支出 587 億円→632 億円)

・・・現状 15,300 人 留学生 1,460 人



(2) 2020年定量目標達成に向けたアクションプランの策定

関係者で上記(1)の目標達成に向けた行程表を第2ステージ内(2014年7月末まで)に策定する。

(観光は、観光10年プロジェクト等のアクションプラン)

提議 2 定量目標達成に向けて、当面の重点策を次の通りとする。

〈全体的な項目〉

◇世界遺産登録の推進

- ・産業革命遺産の登録への具体的体制づくり
- ・教会群の推薦獲得への活動継続実施
- ・ローマ教皇の来崎誘致、バチカンへの「教会群」支援要請活動

◇新幹線整備促進・まちづくりの推進

- ・まちなか全体のエリアマネジメント推進、方向付け、全体的交通体系整備(含む二次交通)

◇中小企業の新分野進出支援

- ・販路拡大支援(ビジネス交流会・商談会等の拡充、商工会議所)

◇地域および層の広がりの強化

- ・佐世保地区の地域活性化活動(させば未来創造フォーラム)との連携
- ・若手団体等による活動推進(会議所青年部・夜景、青年会議所・国際化・留学生交流)

◇プロジェクトの強化

- ・推進会議・ワーキングチームへの直接関係者の参画による活動強化
- ・賢人アドバイザー組織づくりの推進
- ・支援協議会の会員増強活動の推進(～2014年7月)

〈基幹製造業〉

◇客船等高付加価値船建造体制づくり支援の推進

- ・基幹製造業の新会社(三菱日立パワーシステムズ(株))との連携推進

◇ながさき海洋・環境産業拠点特区の認定推進支援、日本版EMEC誘致活動実施

◇ながさき海洋環境産業拠点特区、ながさき海洋産業雇用創造プロジェクトの活用研究、関連情報共有活動実施

◇中小製造業の新分野進出支援

ながさき海洋・環境産業に係る新事業参入のための地域クラスター組成の推進

〈観 光〉

◇おもてなしの充実・推進

- ・国体に向けたおもてなしの強化、総おもてなし運動参加団体拡大等
- ・民間主導での Wi-Fi ポイント拡充（空港バス降車場、宿泊施設、コンビニの活用等）

「九州アジア観光アイランド総合特区」を活用した特区ガイド育成への参加

◇M I C E 施設整備と誘致推進

- ・産学官連携によるM I C E 誘致推進組織の立ち上げと誘致活動展開
- ・M I C E サプライヤーの育成推進

◇インバウンド対策推進へのまちづくり

- ・官金連携によるまちなか整備に係る情報収集と整備促進
- ・関西圏との連携強化・マーケット対策の推進（訪問・相互交流要請）
- ・九州の横軸観光連携強化活動展開（訪問・相互交流要請）
- ・まちの魅力の商品化（長崎の和を中心としたまちの魅力づくり具体案推進）

◇長崎の情報発信の強化・充実の推進

- ・首都圏でのアンテナショップ設置検討推進
- ・民間企業 HP への観光情報サイトバナーリンク拡大および行政観光サイト一元化推進

◇夜景観光の推進と対外発信強化

- ・長崎夜景の楽曲を活用した情報発信の推進（会議所青年部）
- ・夜景ウイークの実施企画検討推進
- ・100 万枚ハガキキャンペーンの実施（会議所青年部）

〈水 産〉

◇かんぼこ販売拡大

- ・推進会議参加団体、企業による「出島揚げ」のお土産等での活用

◇練り製品に続く振興戦略検討

◇水産試験・研究機関集積の国際的展開の支援

〈大 学〉

◇留学生支援センターの運営体制・財政基盤確立支援

◇インターンシップ等の支援活動推進

- ・邦人学生グローバル人材育成と外国人留学生との連携強化活動
- ・支援センターと県内大学間連携共同教育推進事業の連携によるインターンシップ推進
- ・中心商店街での留学生活用推進（まちなかインターンシップ等）

- ◇中国における長崎留学生同窓会の立ち上げ
- ◇国際交流広場の設置（大学、青年会議所）
- ◇当地進出企業と地場中小製造業との連携の可能性調査・研究

提議 3 次回「第9回長崎サミット」の日程

平成26年8月1日(金)